

都市計画マスタープラン策定に係る
第2回庁内検討委員会

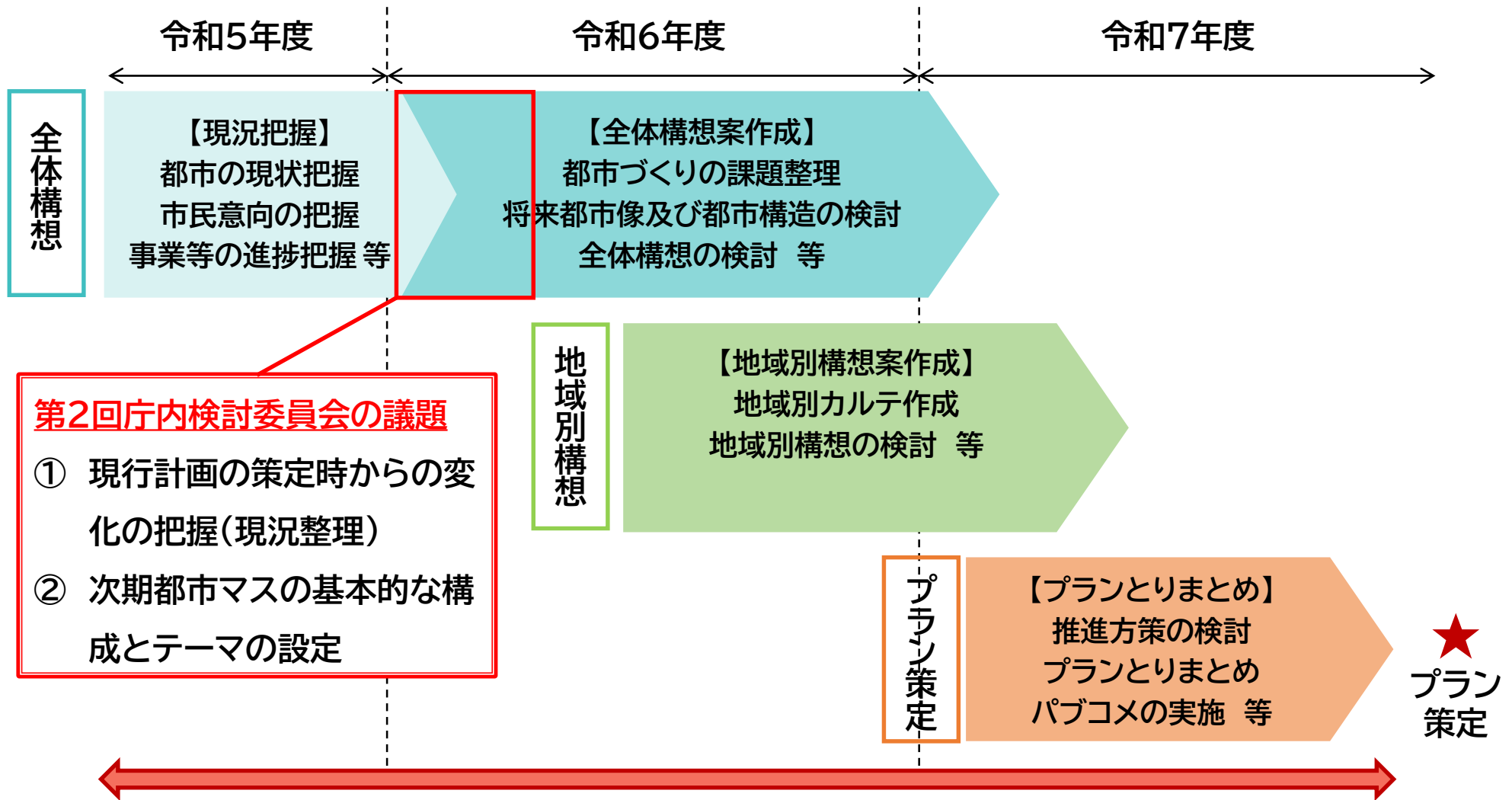
- | | |
|--------------------|-------|
| ①第2回庁内検討委員会の議題 | …P 1 |
| ②現行計画の策定時からの変化等 | …P 3 |
| ③市民アンケート調査結果 | …P 9 |
| ④次期都市マスの構成とテーマ設定 | …P 19 |
| ⑤全体構想策定に伴う合意形成プロセス | …P 32 |

令和6(2024)年6月11日(火)

第2回庁内検討委員会の議題

第2回庁内検討委員会の議題

詳細スケジュール
は別紙参照



庁内検討委員会(9回程度／令和5年度:1回、令和6年度:4回、令和7年度:4回)
都市計画審議会(10回程度／令和5年度:2回、令和6年度:4回、令和7年度:4回)

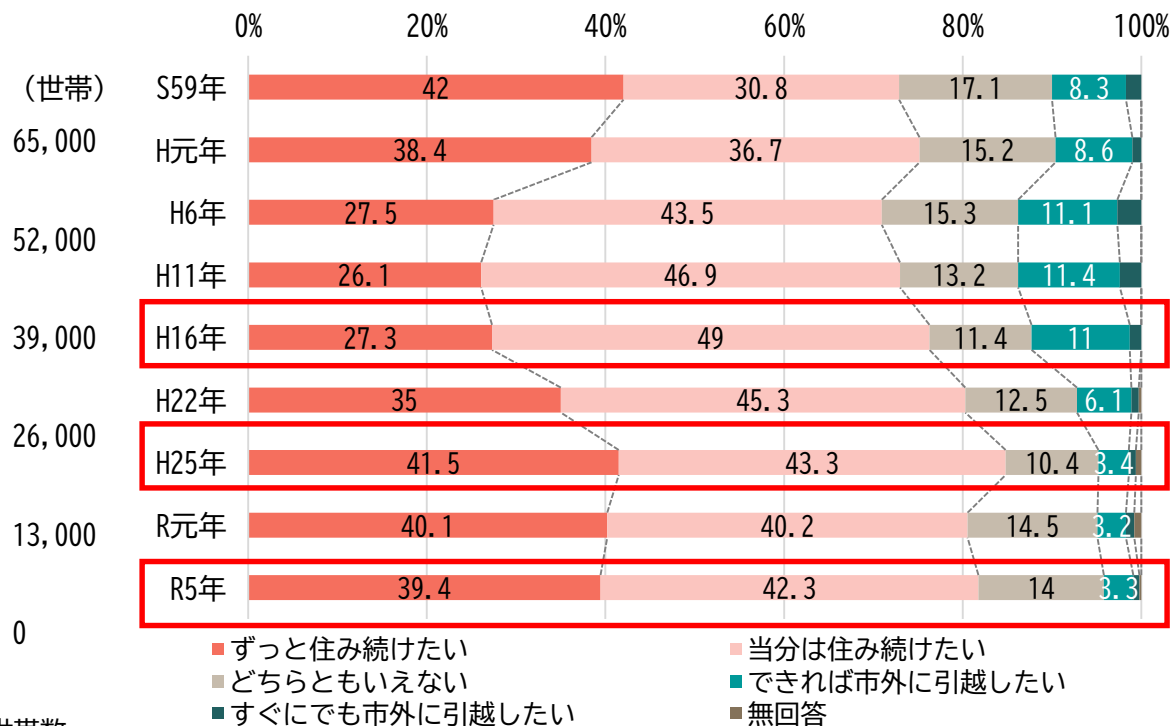
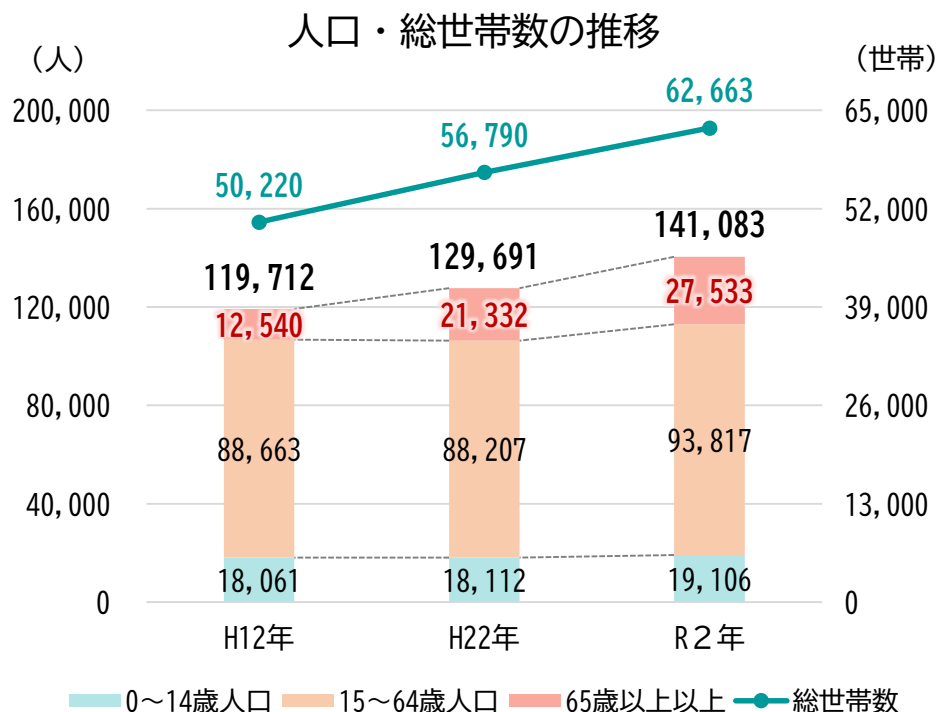
【現況整理】

**現行計画の策定時からの変化と、
施策の進捗状況の把握**

■現況整理：計画策定から20年間の変化

①住宅地として選ばれ、住み続けたいと思う市民ニーズが増加

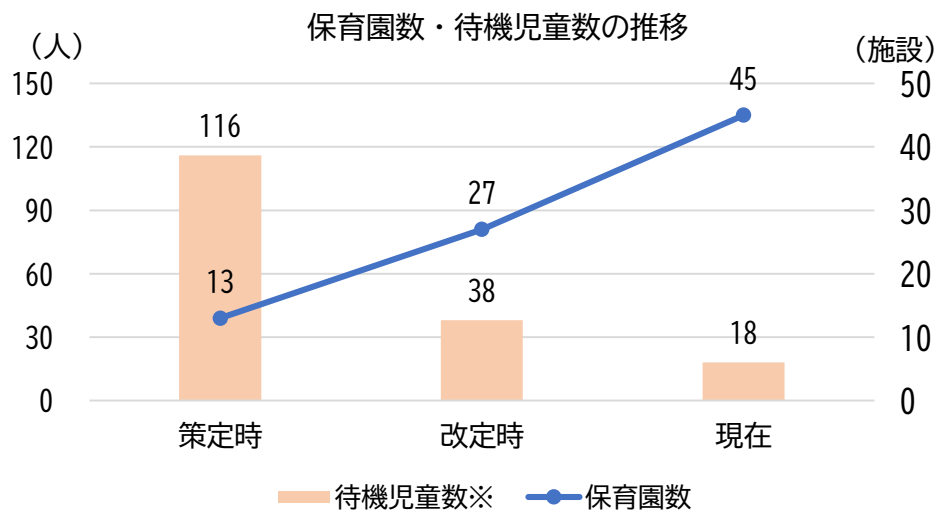
- 住みよさランキング300位程度**上昇**（策定時**637位**⇒改定時**276位**⇒現在**343位**) [東洋経済]
- 人口・世帯数が共に**継続増加**の一方、65歳以上の人口は**2倍以上増加** [国勢調査]
- 分譲マンションは4割程度**増加**（策定時**180棟**⇒改定時**206棟**⇒現在**254棟**) [担当課資料]
- 朝霞市に「住み続けたい」と思う市民の割合は**増加** [市民意識調査]



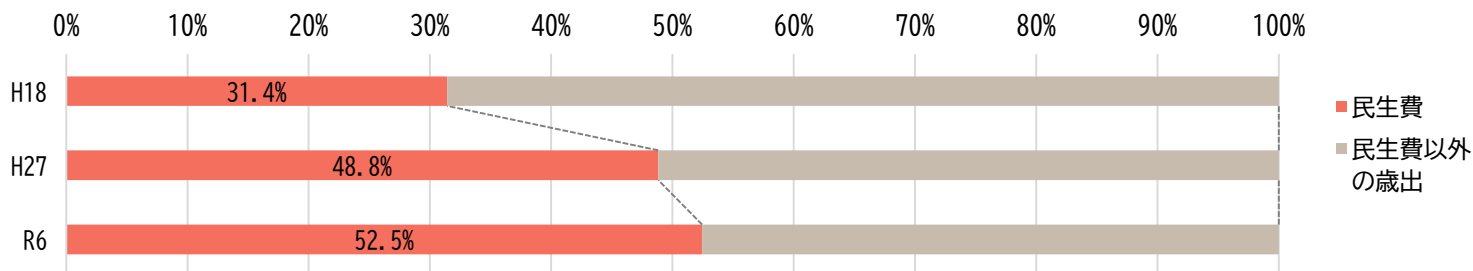
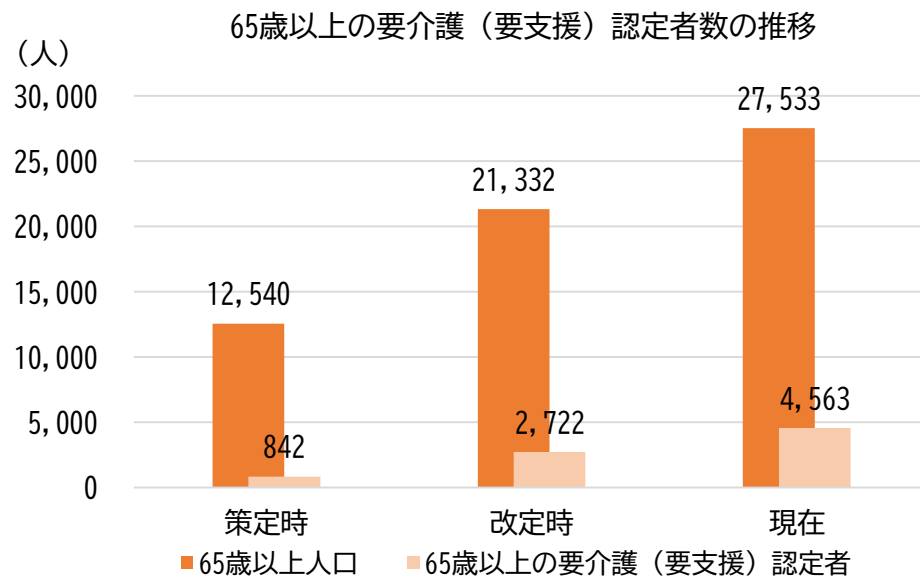
■現況整理：計画策定から20年間の変化

②子育て環境は充実している一方、高齢者福祉の需要が急増

- 保育園数は3倍**増加**、待機児童数は過去最高値の2割程度に**激減** [統計あさか]
- 65歳以上の要介護(要支援)認定者は**継続増加**、20年間で5倍以上**急増** [高齢者福祉計画・介護保険事業計画]
- 老人福祉施設数は5倍程度**増加** (策定時**13施設**⇒改定時**37施設**⇒現在**66施設**) [朝霞市立地適正化計画]
- 民生費の歳出の割合は**継続増加** [担当課資料]



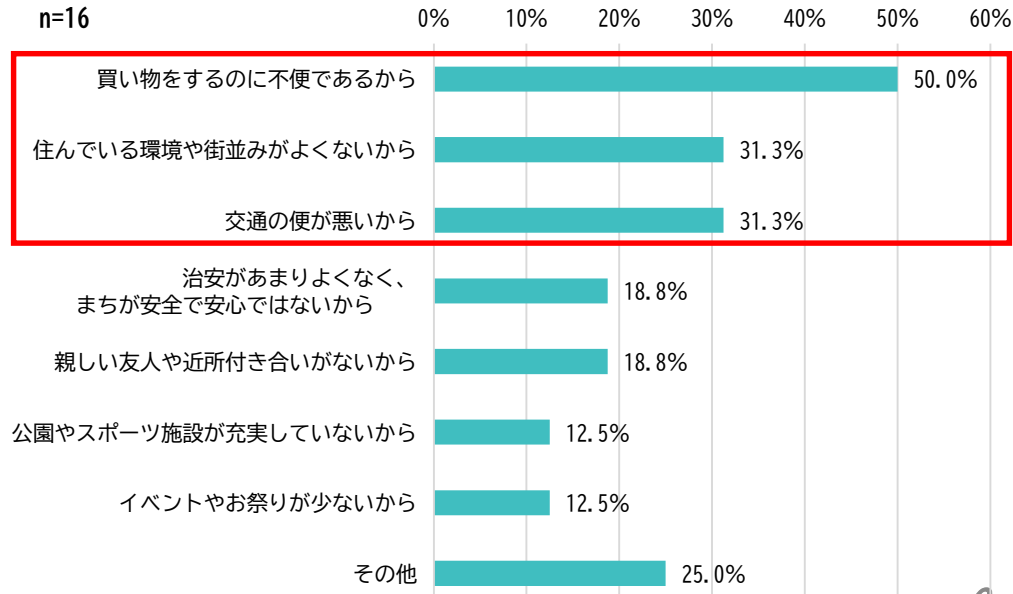
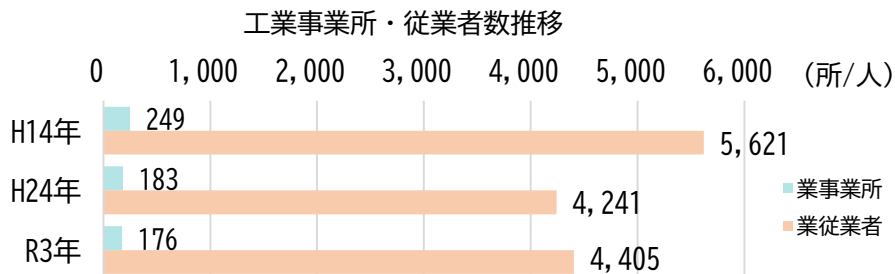
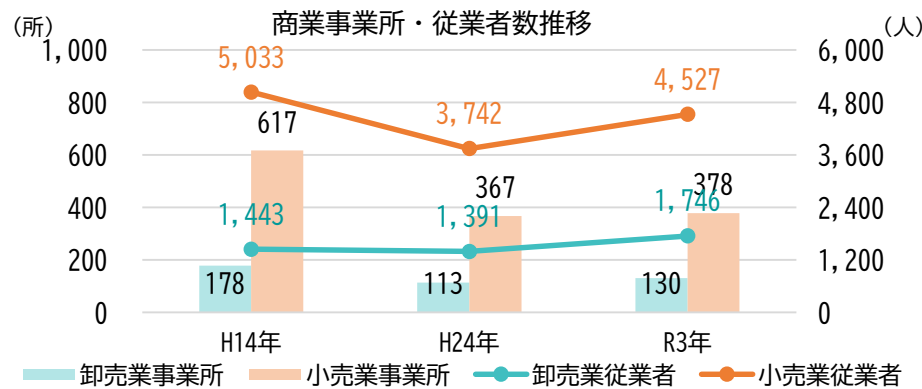
※平成16年度以降、平成23年度の値がピーク値である。



■現況整理：計画策定から20年間の変化

③商業・産業活力の低下により、まちの魅力が低下

- 市内購買率(家族で買い物を楽しむ)は小幅で**増加** (策定時10.5%⇒改定時13.2%⇒現在14.7%)
[埼玉県広域消費動向調査報告書]
- 商業は卸売業・小売業共に**減少**傾向
[商業統計調査、経済センサス]
- 工業は事業所・従業者数共に**減少**傾向
[工業統計調査、経済センサス]
- 青少年の朝霞市が嫌いな理由として、「買い物をするのに不便である」「住んでいるまちなみや環境がよくない」「交通の便が悪い」は多い
[青少年アンケート]
- 産業活性化の取組(魅力ある商業機能の形成、産業誘致の推進等)について「重要である」と回答する市民の割合が**増加**傾向
[市民意識調査]



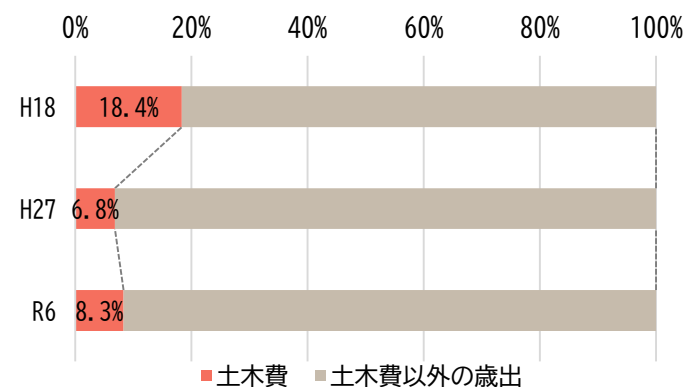
■現況整理：計画策定から20年間の変化

④市民の自然環境や農地の保全に対する意識が向上

- 公園面積は**継続増加**（策定時237,778㎡⇒改定時302,238㎡⇒現在310,000㎡） [担当課資料]
- 住宅用地への農地転用面積は改定時をピークに**減少**
（策定時25,856㎡⇒改定時37,763㎡⇒現在19,170㎡） [統計あさか]
- 自然環境について、「現在のまま保全する」と思う市民の割合は**継続増加**
（策定時16.8%⇒改定時29.4%⇒現在30.1%） [市民意識調査]

⑤より安全で安心なまちに向けた市民ニーズが増加

- 刑法犯罪認知件数は4割程度**減少**
（策定時2,566件⇒改定時1,288件⇒現在1,503件） [朝霞警察署]
- 交通事故発生件数は**継続減少**
（策定時662件⇒改定時429件⇒現在283件） [統計あさか]
- 土木費の歳出の割合は**減少傾向** [担当課資料]
- 防災・消防に関する取組について「重要である」と回答する市民の割合が**増加傾向** [市民意識調査]



⑥NPOなどの市民活動は活発である一方、地縁活動は縮小傾向に

- 市内NPO法人は6倍以上**増加**（策定時7団体⇒改定時36団体⇒現在45団体） [埼玉県NPO情報ステーション]
- 自治会加入率は**継続減少**（策定時54.1%⇒改定時47.1%⇒現在39.5%）

■現況整理：計画策定後事業進捗に関する評価

計画策定後の事業進捗表は「参考資料3」を参照

- 平成17年(2005年)の現行計画策定から現在までの概ね20年間で、現行計画に位置づけられている各事業の進捗状況の整理を進めています。
- 事業の進捗状況に加え、事業実施による効果をわかりやすく表現するため、定量的な指標を用いて示すことを想定しています。
- そのため、各事業の担当課に対し事業の進捗やそれによる効果について照会やヒアリング等の実施をさせていただきますので、どうぞご協力をお願いします。

【現況整理】

**都市計画マスタープランに係る
アンケート調査の実施結果**

■市民アンケート調査の概要

項目	説明
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・市民生活に寄り添った都市マスとするため、市民の日常生活における行動などを丁寧に把握することを目的とした。 ※まちづくりの課題やこれまでのまちづくり施策に対する評価等は、総合計画策定時の市民意識調査で把握される予定であり、総合計画のアンケートと重複しないよう留意した。
実施内容	<p>【実施時期】R5年3月～4月末</p> <p>【配布部数】18歳以上の市民3,000人(無作為抽出)</p> <p>※年代や地域等から調査対象者をバランスよく抽出(過去に他の計画策定において実施した調査の対象者は除いた)</p>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域区分を考慮して3,000人に配布。紙での回答だけでなくwebからも回答できるようにした。 ・上記に加え、多くの方にご回答いただくため、広報及びホームページで周知したうえ、どなたでもwebから回答できるようにした。

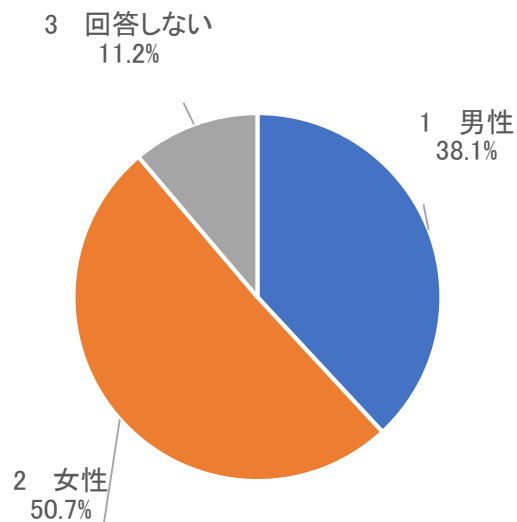
郵送回答	Web回答	合計
617 件	488 件	1,105 件 (回収率:36.8%)

■市民アンケート調査結果の概要

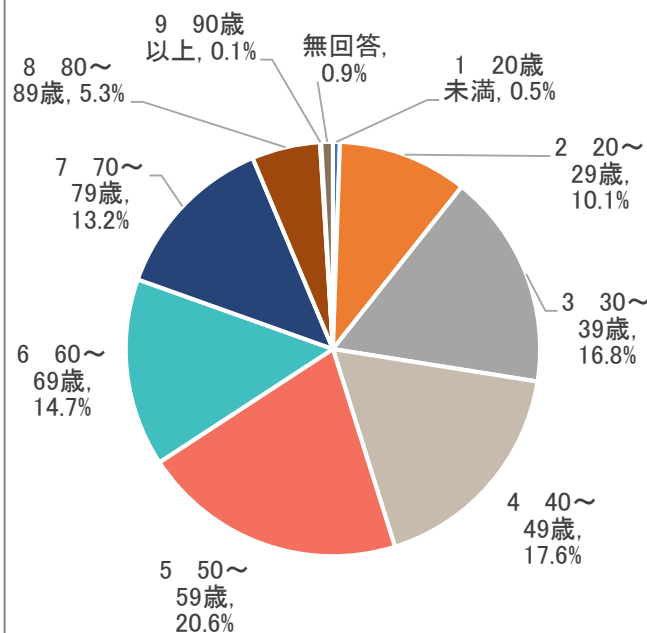
(1)回答者の属性

- 回答者の属性を見ると「女性」からの回答が多い傾向にある
- 回答者の年代では、「50代」が1番多く占めており、次いで「40代」「30代」との順になっており、現役世代からの回答を多く得ることができた。
- 回答者の居住地は概ね5地域の人口構成に応じた傾向となっている。

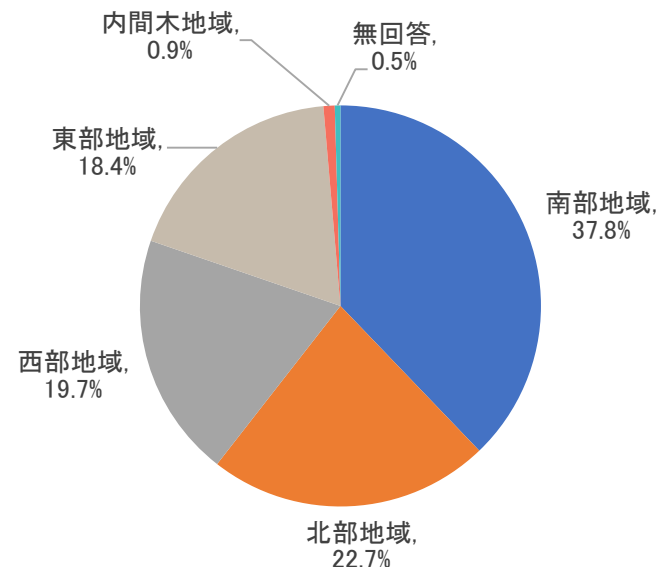
Q1-1: 回答者の性別



Q1-2: 回答者の年齢



Q1-4: 回答者の居住地



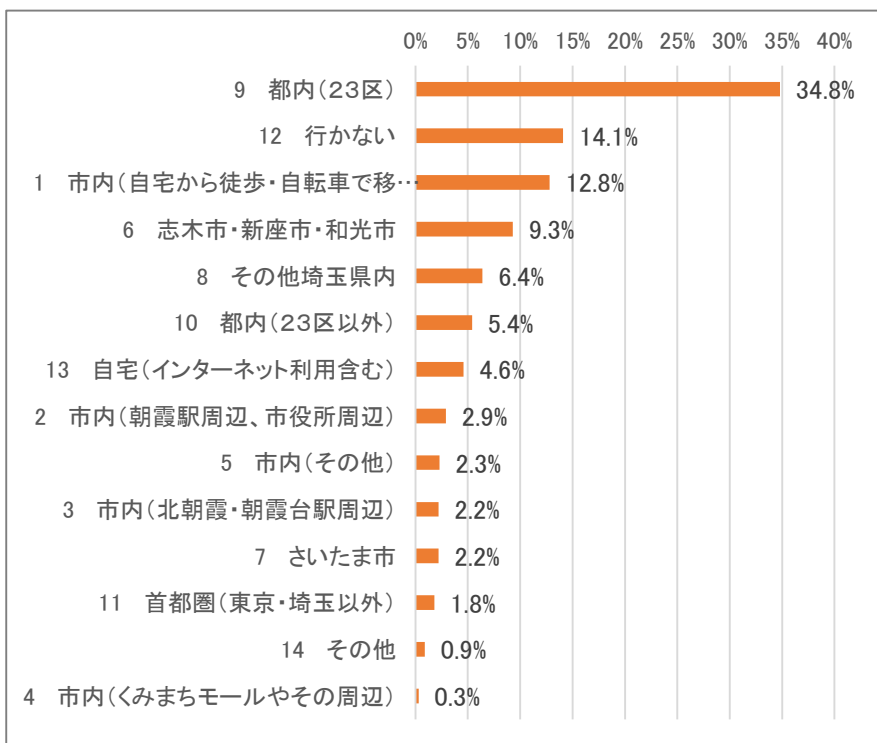
■市民アンケート調査結果の概要

(2)暮らし方の状況とニーズについて

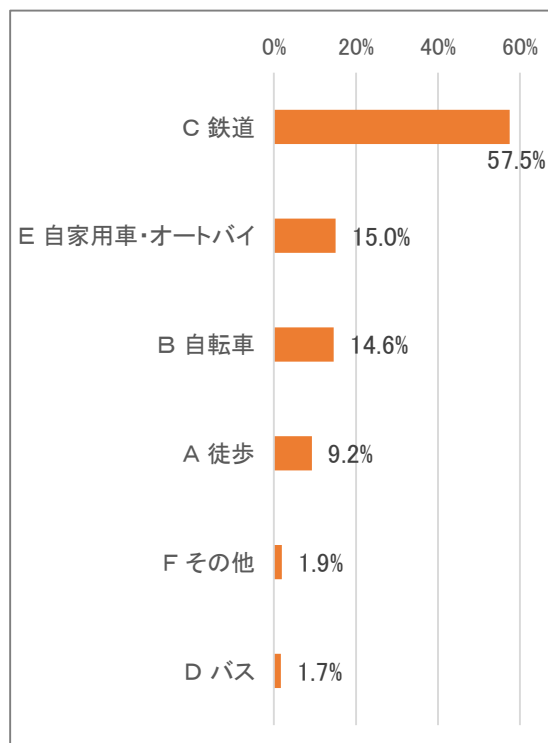
<日常生活のあるシーンにおける行き先等【平日:通勤・通学】>

- 通勤・通学先は「都内(23区)」が最も多く占めるが、「市内」(「行かない」も含める)が通勤・通学先と回答した方は全体の約4割を占め、「都内(23区)」よりも多く占めている。
- 通勤・通学の交通手段は「鉄道」が約6割と最も多く、次いで「自家用車・オートバイ(15%)」となっている。
- 通勤・通学の頻度は、「平日ほぼ毎日」が7割強を占めている。

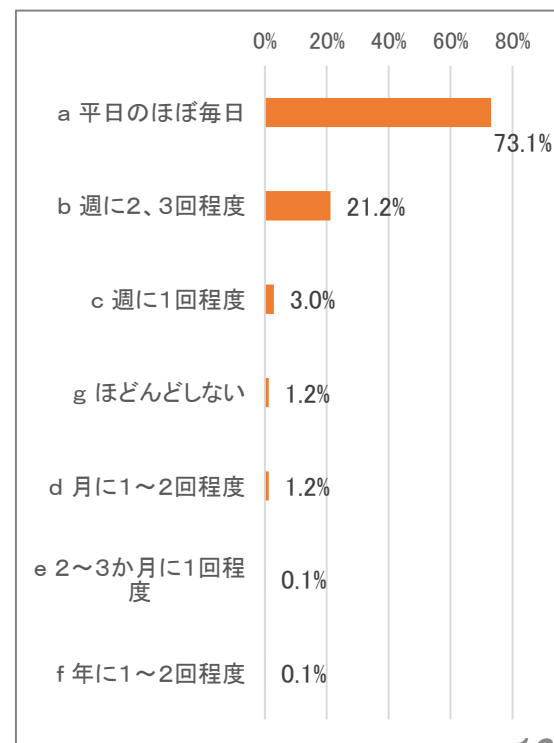
Q2-1-1:通勤・通学先



Q2-1-2:交通手段



Q2-1-3:頻度



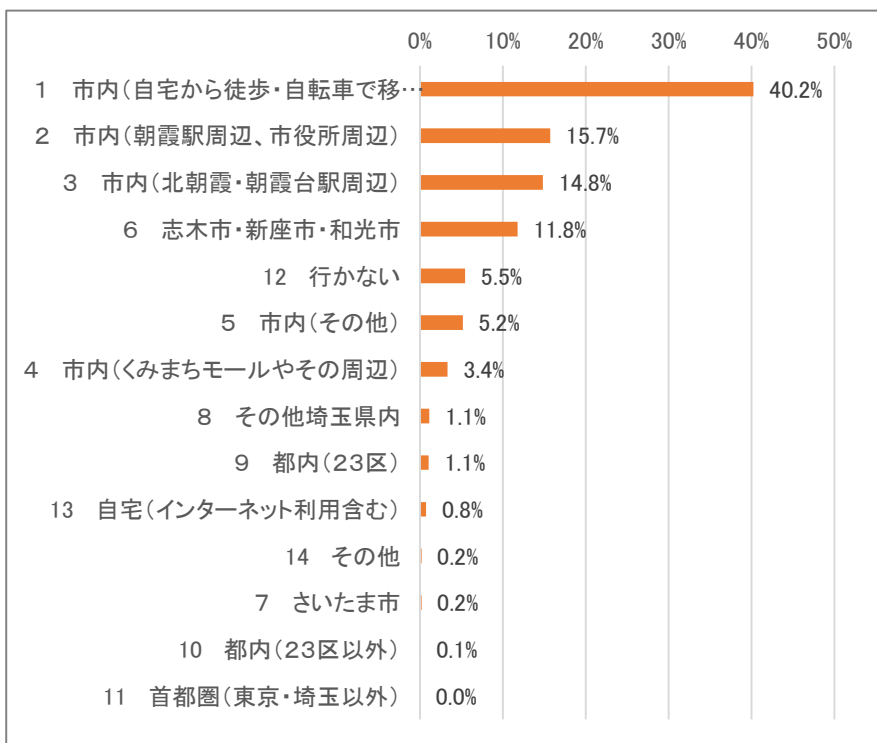
■市民アンケート調査結果の概要

(2)暮らし方の状況とニーズについて

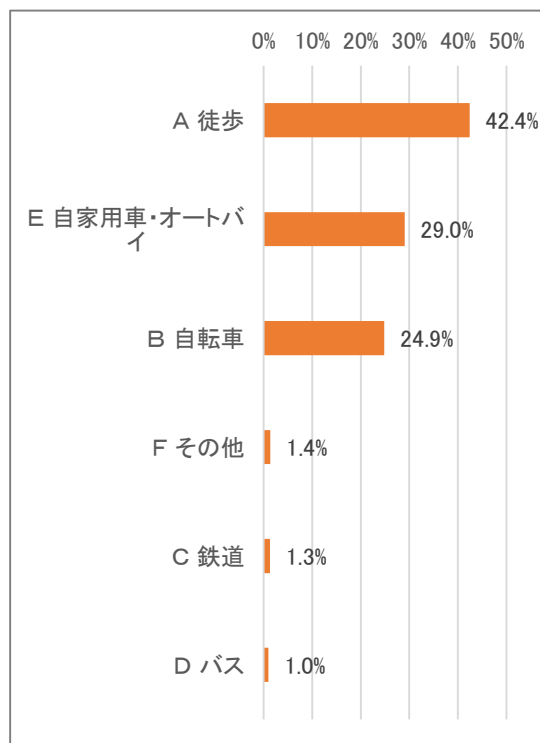
<日常生活のあるシーンにおける行き先等【平日:日用品の買物】>

- 平日の日用品の買物を「市内」で済ませている方は全体の約8割を占めており、特に「自宅周辺」や「駅周辺」との回答が多い。
- 交通手段は「徒歩」と「自転車」を加えると約7割を占め、自宅付近で済ませている方が多いと推察される。
- 頻度は「週に2、3回程度」が5割強を占めている。

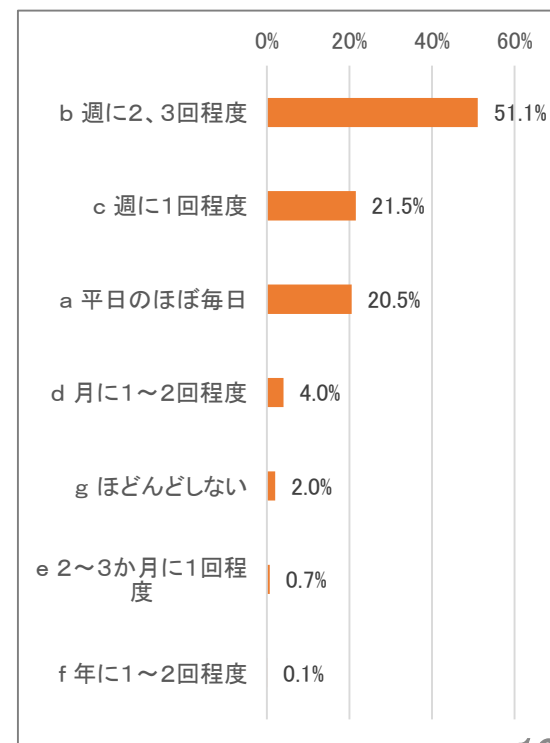
Q2-2-1: 行き先



Q2-2-2: 交通手段



Q2-2-3: 頻度



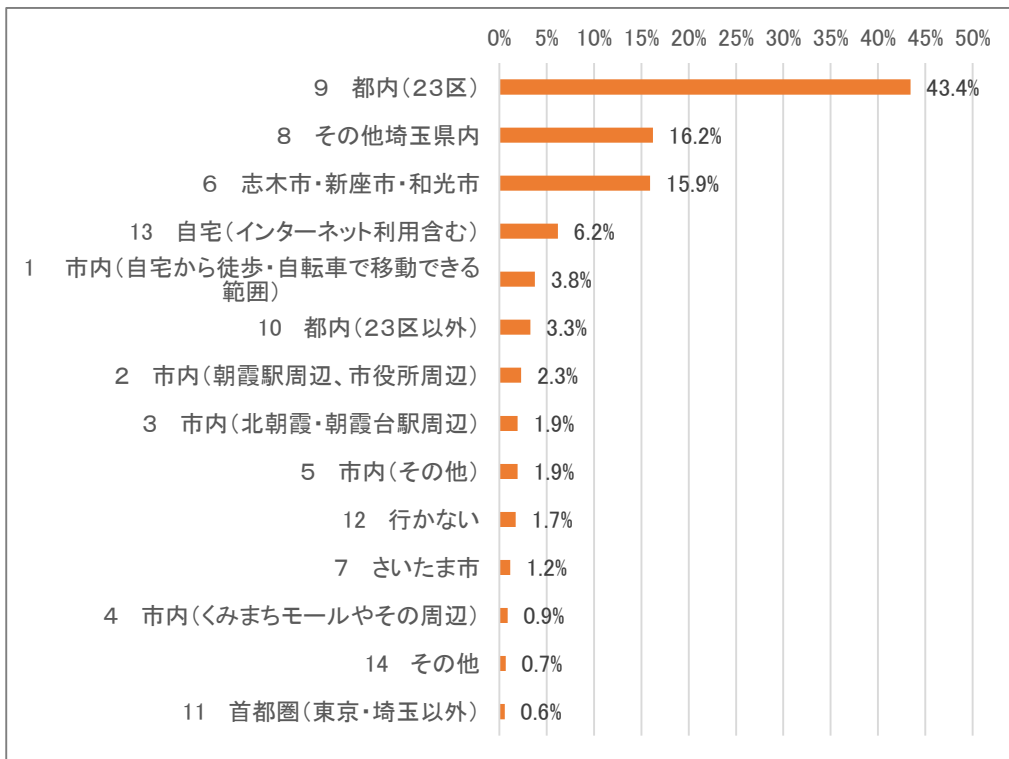
■市民アンケート調査結果の概要

(2)暮らし方の状況とニーズについて

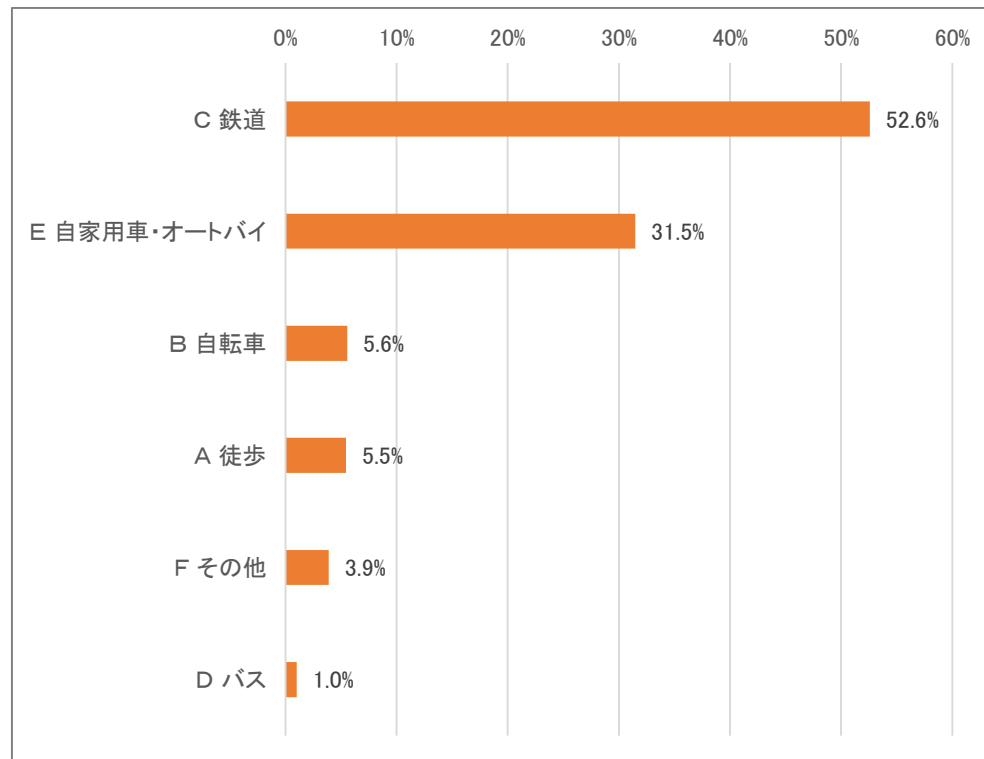
<日常生活のあるシーンにおける行き先等【休日:日用品以外の買物】>

- 休日の日用品以外の買物は「都内(23区)」が最も多く、次いで「その他埼玉県内」「志木市・新座市・和光市」の順となり、上位3つで約7.5割を占め、日用品以外の買物は市外で済ませていることがわかる。
- 交通手段は「鉄道」が5割強と最も多く、次いで「自家用車等」が3割強を占めている。

Q2-6-1: 行き先



Q2-6-2: 交通手段



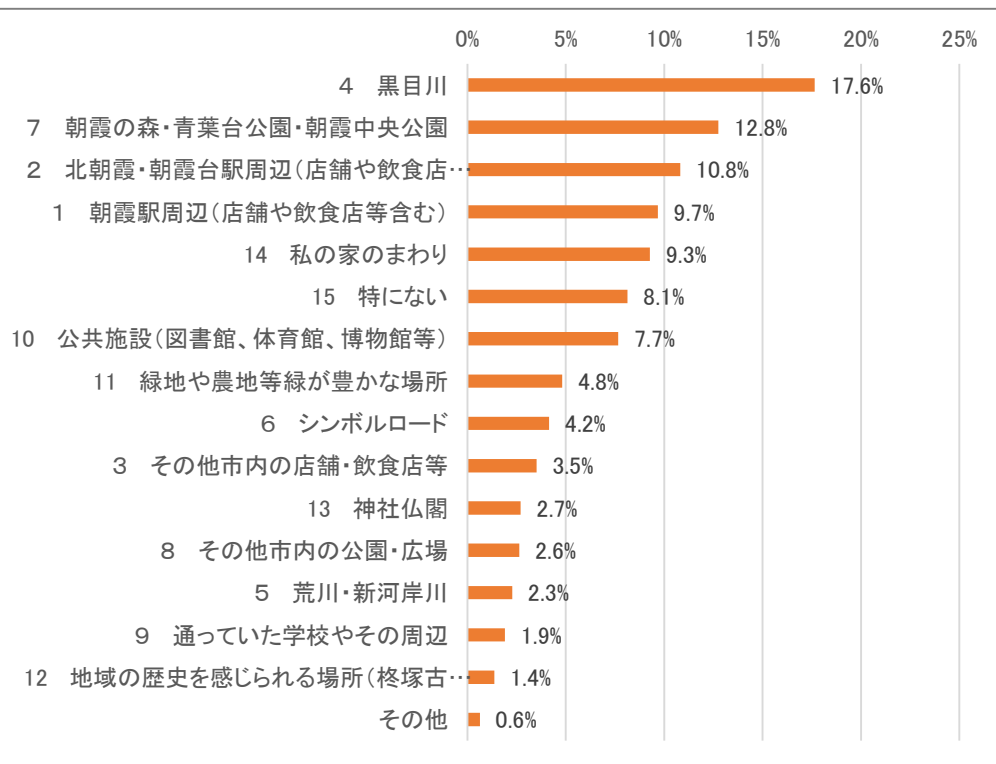
■市民アンケート調査結果の概要

(2)暮らし方の状況とニーズについて

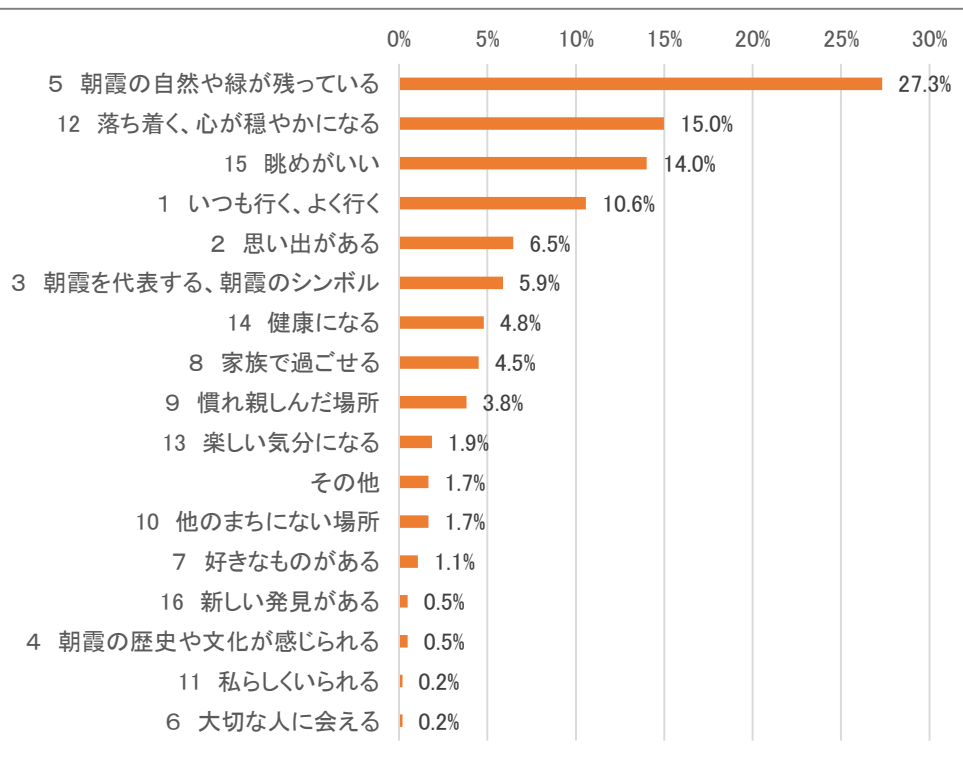
<朝霞市内で大切に思う場所とその理由>

- 市内で大切に思う場所の1番は「黒目川」、2番は「朝霞の森等」となり自然や公園等が選ばれ、3番・4番に駅周辺が選ばれている。
- 黒目川を選んだ理由として「自然や緑が残っている」や「落ち着く」が多く挙げられている。

Q3-1:大切に思う場所



Q3-2:黒目川を選んだ理由



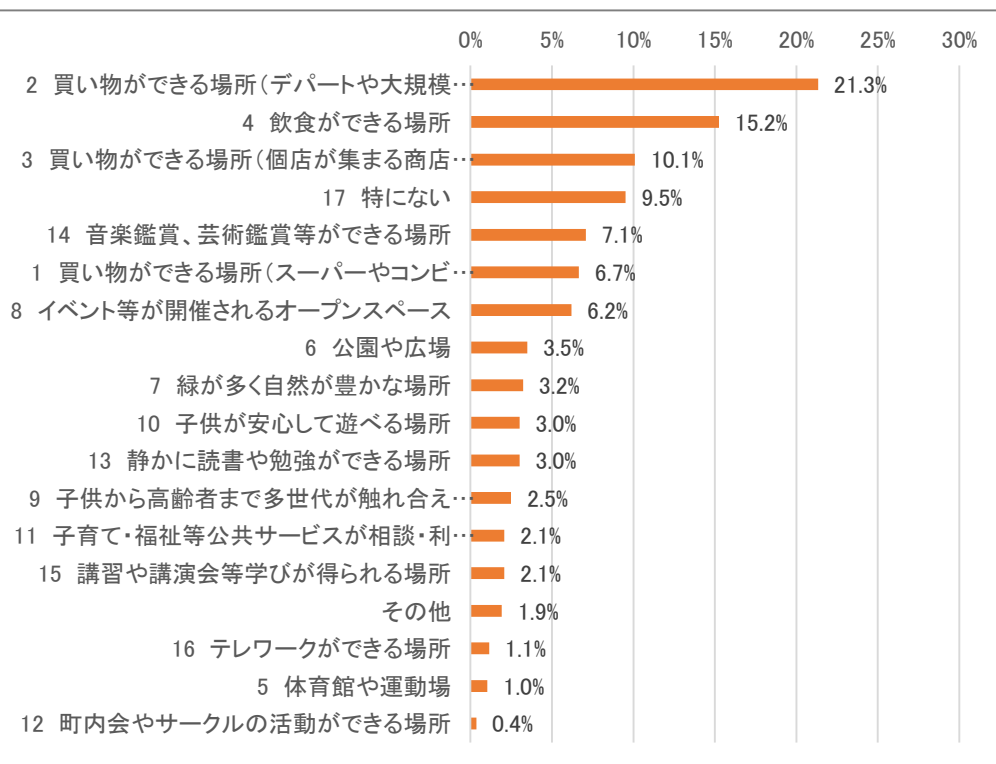
■市民アンケート調査結果の概要

(2)暮らし方の状況とニーズについて

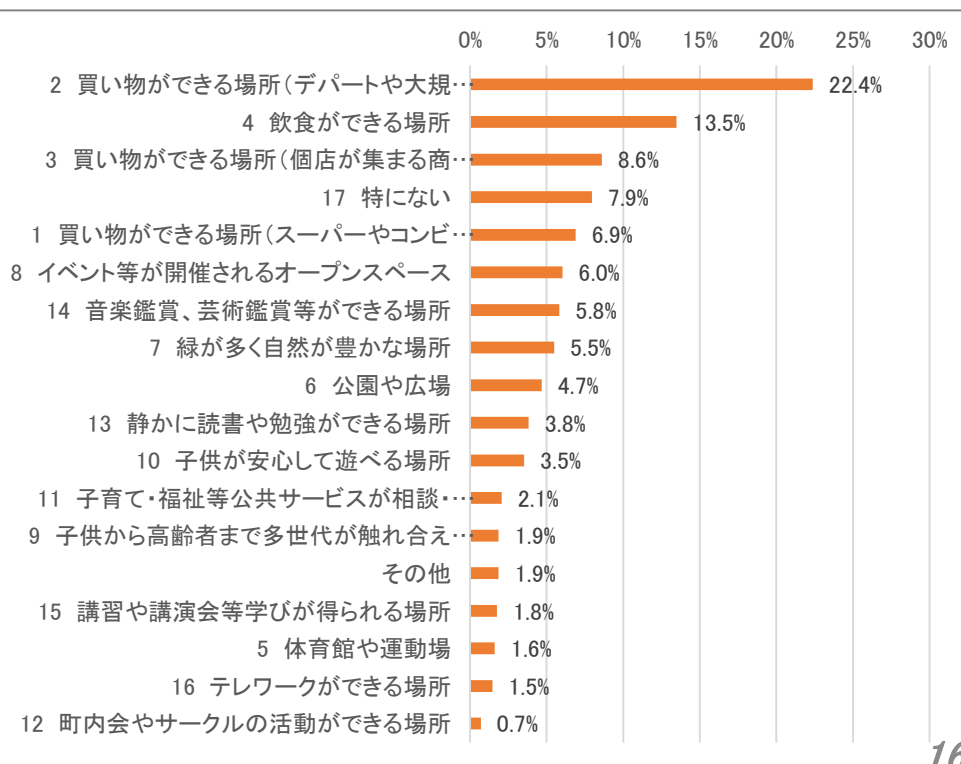
<駅周辺にもとめる場所>

- 朝霞駅および北朝霞駅・朝霞台駅周辺に求める場所として、「買い物ができる場所」や「飲食ができる場所」との回答が多く占めており、商店や飲食店の充実に対するニーズが高いことが推察される。
- 「買物」や「飲食」を除くと、多様な使い方ができる、子どもが安心して遊べるような「オープンスペース」の確保が求められていることが推察される。

Q4-1: 朝霞駅周辺に求める場所



Q4-2: 北朝霞駅・朝霞台駅周辺に求める場所



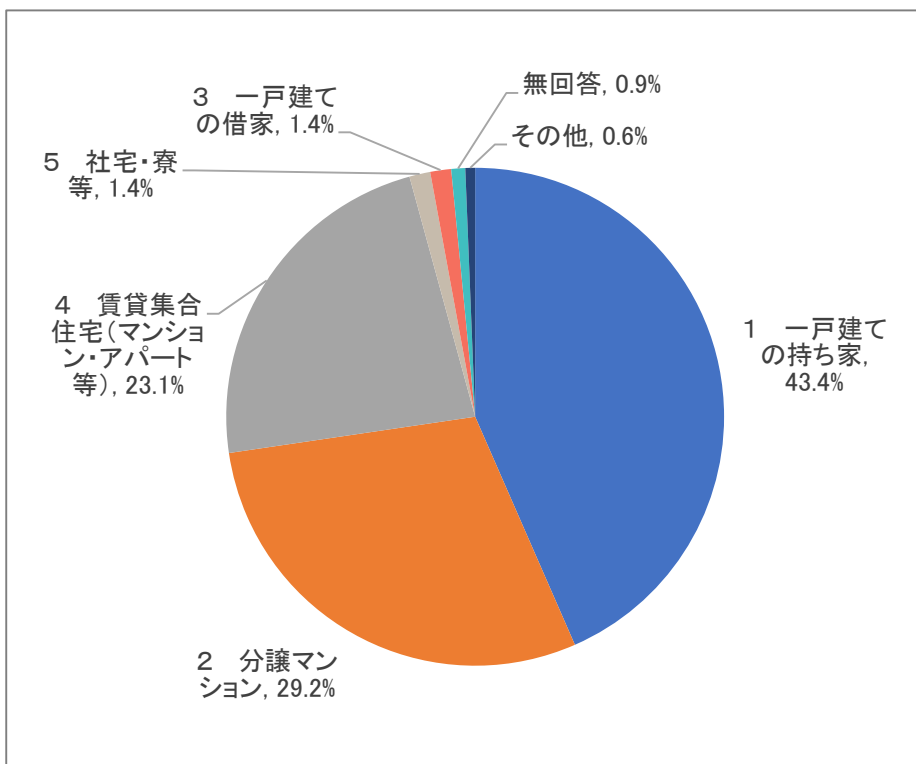
■市民アンケート調査結果の概要

(3)住まい方の状況とニーズについて

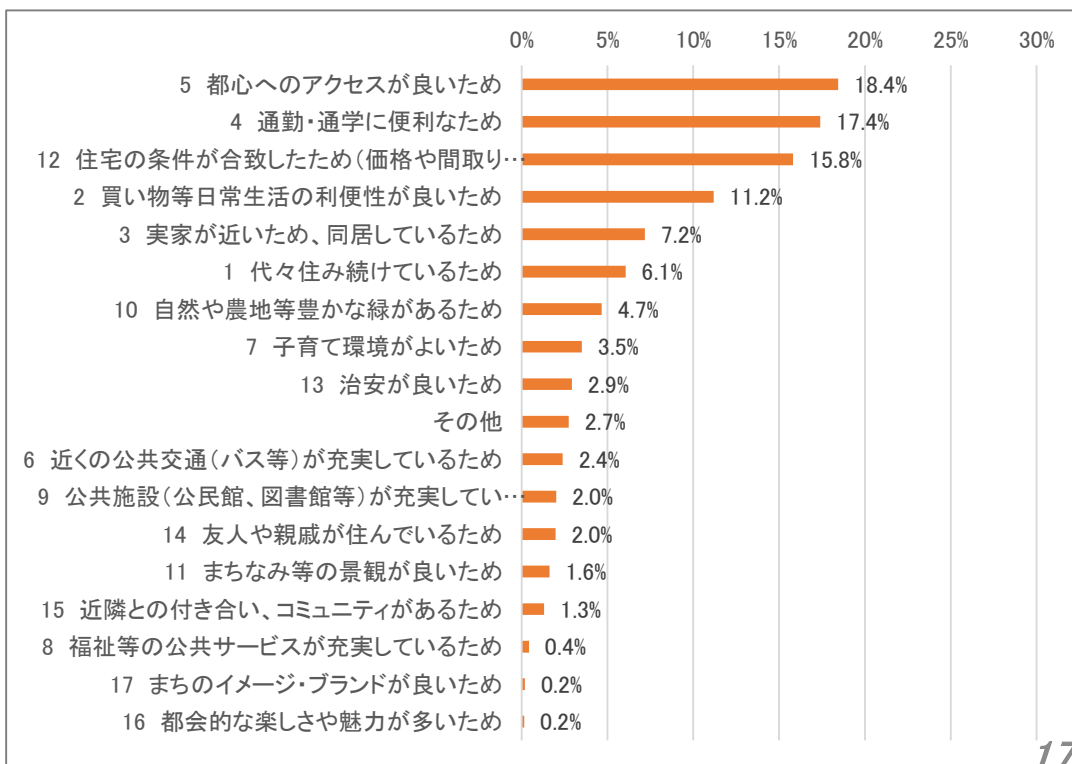
<現在の居住形態と住んでいる場所を選んだ理由>

- 現在の居住形態として、4割強が「一戸建て(持ち家)」、約3割が「分譲マンション」、残りが「賃貸住宅・社宅等」との構成となっている。
- 現在住んでいる場所を選んだ理由は、「都心へのアクセス」や「通勤・通学に便利」など目的地へのアクセス性が高く評価されている。次いで「住宅の条件が合致したため」「日常生活の利便性」が挙げられている。

Q5:現在の居住形態



Q6:現在住んでいる場所を選んだ理由



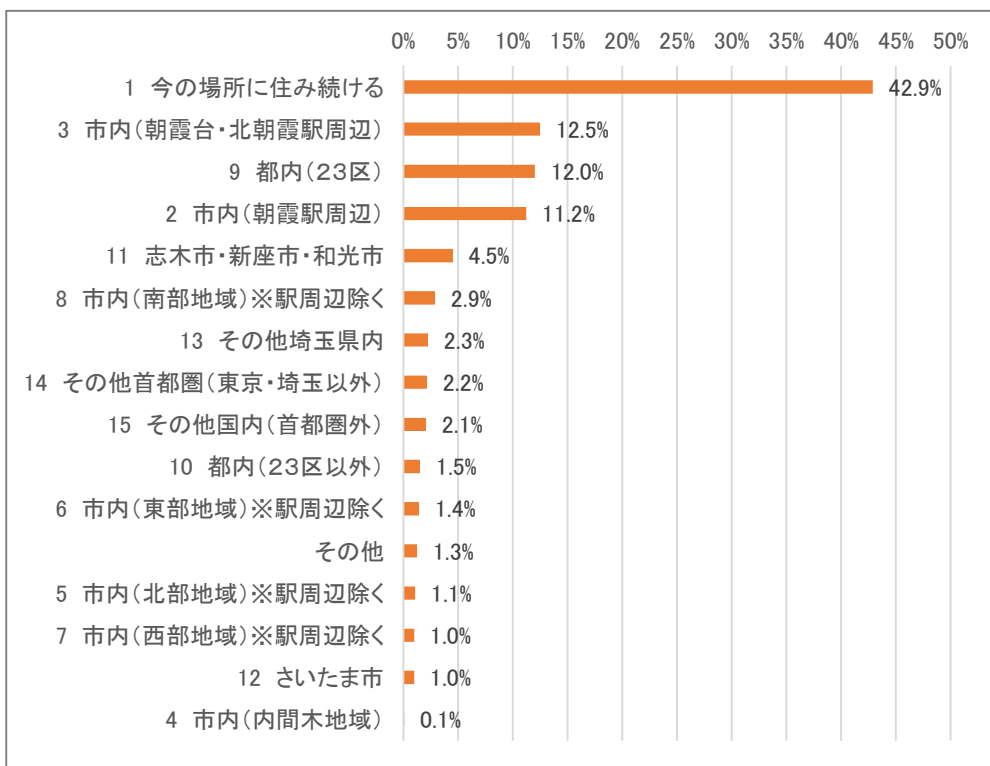
■市民アンケート調査結果の概要

(3)住まい方の状況とニーズについて

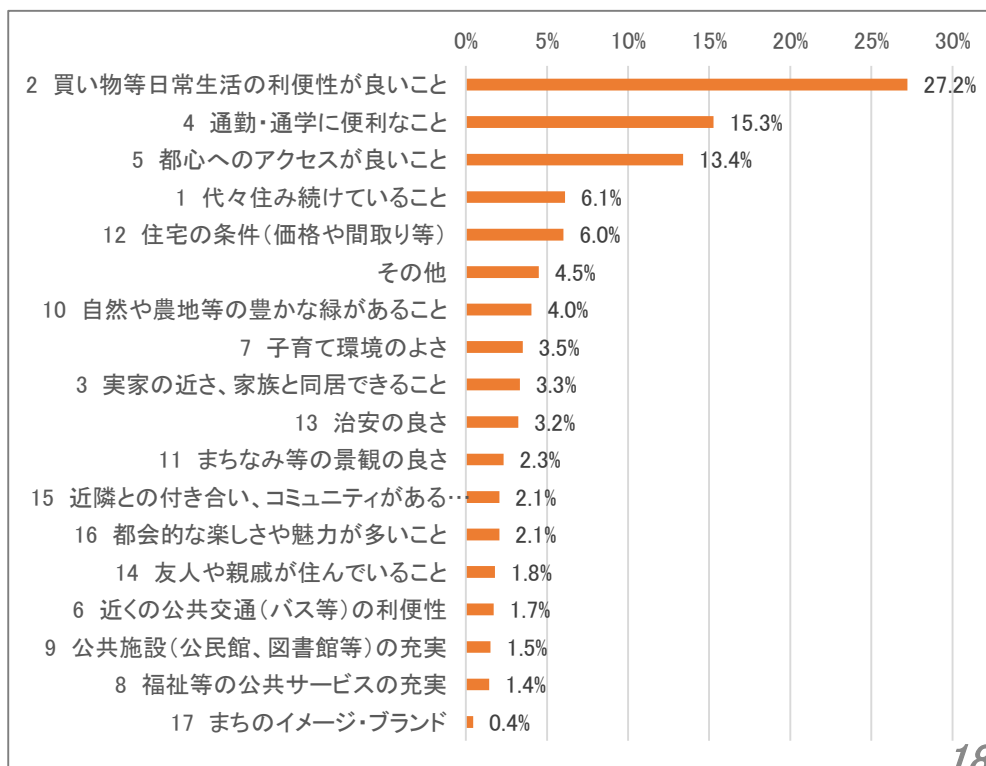
<今後もし希望する場所に引越ができるとした場合の住みたい場所と選ぶ際に重視した観点>

- 住みたい場所に対して、「今の場所に住み続ける」が最も多く、また「市内」との回答も多く、現在の住まいや市内に対する愛着や満足度が高いことが推察される。
- 住みたい場所を選ぶ際に重視した観点として、「日常生活の利便性」や「アクセス性」に関する回答が多くを占めており、住みたい場所として選択されるための重点ポイントとなる。

Q7-1:住みたい場所



Q7-3:住みたい場所を選ぶ際に重視した観点

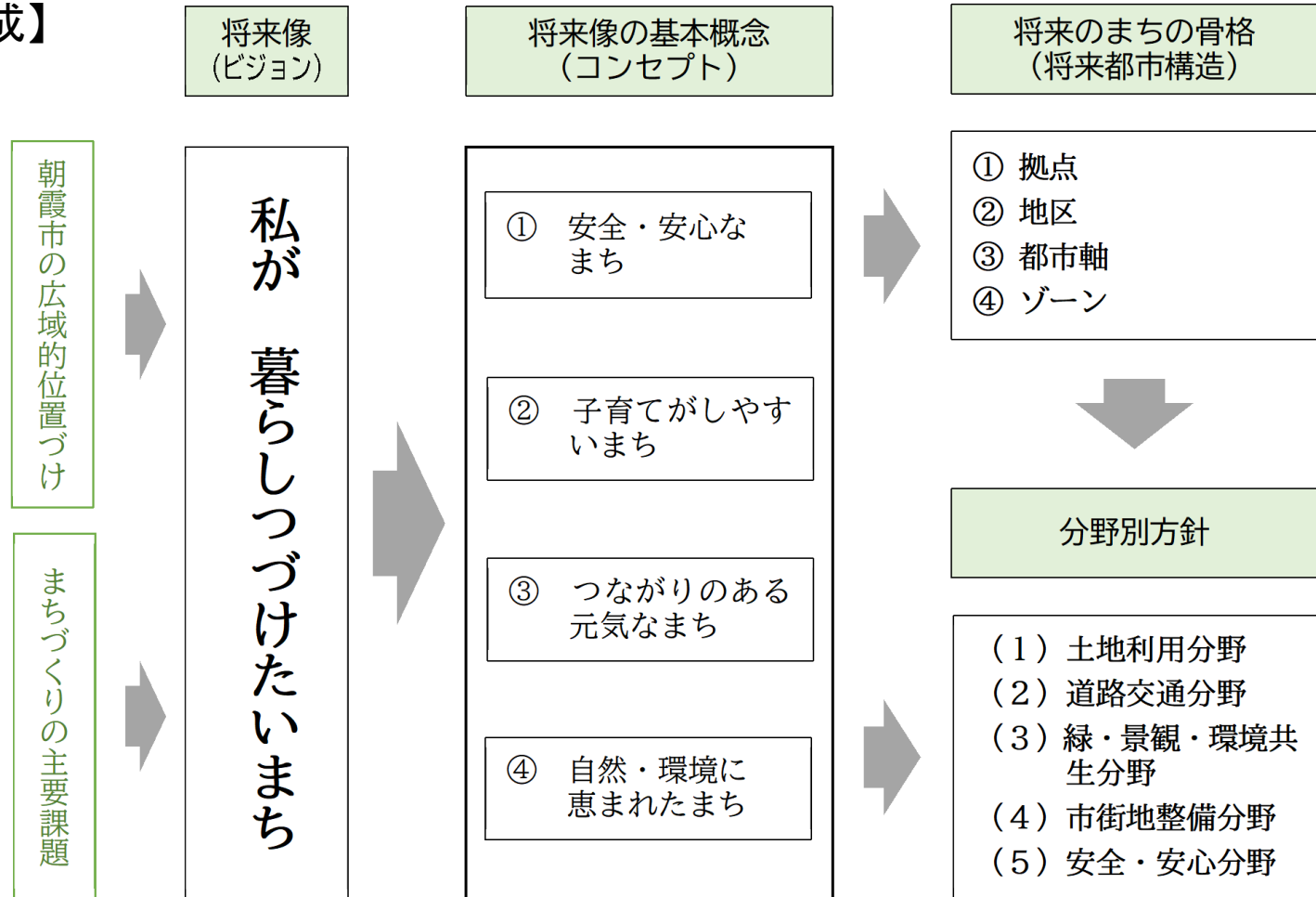


次期都市計画マスタープランの 基本的な構成とテーマの設定

■ 現行都市マスの構成

- 現行都市マスは、「都市づくりの目標」と「分野別方針」で構成された、一般的な構成
- また、広域的な位置づけや現況及び将来予測に基づく課題を整理し、その課題を解決するための方針を述べる、いわゆるフォアキャスト型の計画

【現行計画の構成】



■都市計画運用指針における都市マスの位置づけ

【全体構想に対する記述(第12版都市計画運用指針(令和6年3月/国土交通省))】

- 全体構想においては、用途地域等の地域地区、都市施設、市街地開発事業に関する都市計画の前提となる都市構造・都市空間及びこれと密接な関連を有する交通体系の整備の考え方や土地利用、施設整備等の方針とともに、都市内の自然的環境の保全その他の良好な都市環境の形成、都市景観形成等の指針を明らかにすることが望ましい。
- 各市町村の判断で、各種の社会的課題(環境負荷の軽減、都市の防災性の向上・復興まちづくりの事前の準備、都市のバリアフリー化、良好な景観の保全・形成、集約型都市構造の実現等)への都市計画としての対応についての考え方を、必要な関係部局と調整を図ったうえで、記述することも考えられる。

■想定される都市マスの構成パターンの比較検討

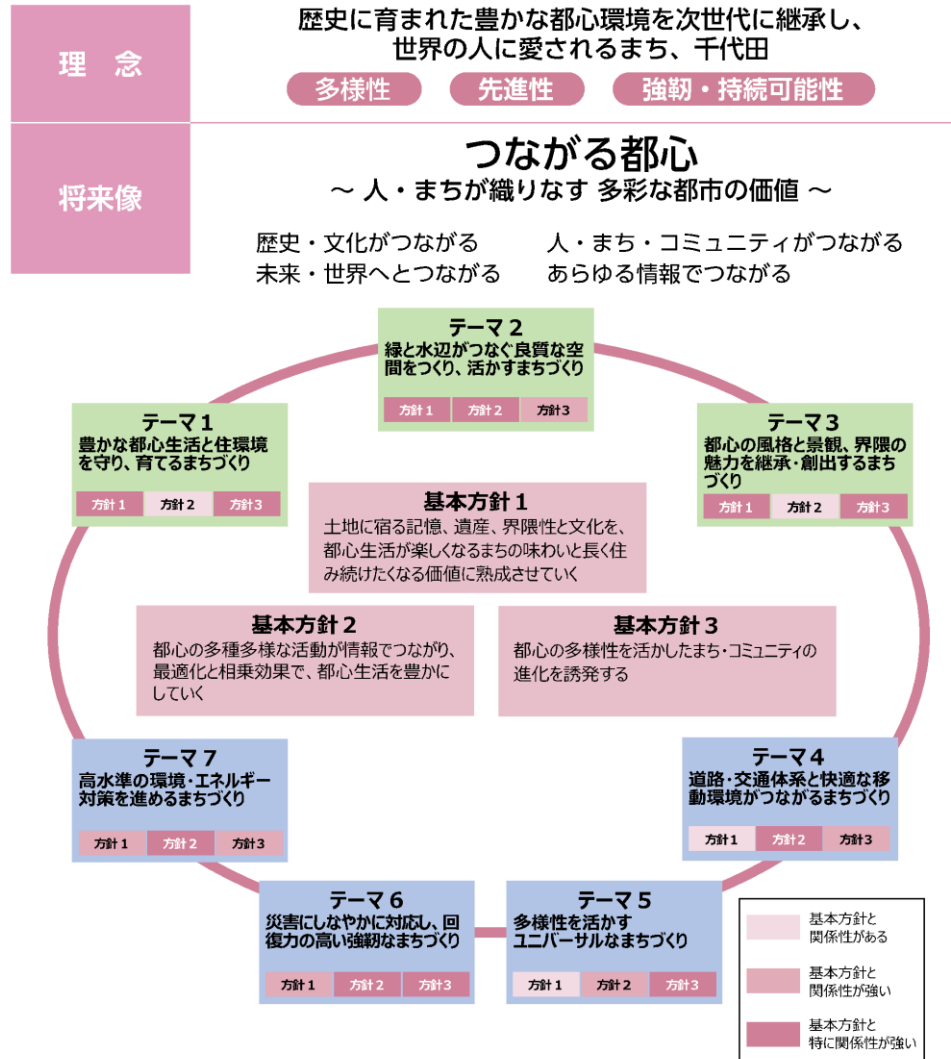
【他都市の都市マス事例を踏まえた、都市マスの構成パターン】

		① 分野別方針型(従来型)	② テーマ型
概要		<ul style="list-style-type: none"> 都市計画運用指針に基づき、土地利用や都市交通、環境、防災などの部門別に方針を示すもの 現行都市マスのほか多くの都市で踏襲されている従来型の構成 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画の分野で特に取り組むべき横断的・複合的なテーマを掲げ、その実現に向けた取組を示すもの
類似都市マス例		<ul style="list-style-type: none"> 朝霞市現行都市マス 相模原市(R2年3月) など 	<ul style="list-style-type: none"> 千代田区(R3年5月) 水戸市(H28年3月) など
アプローチ		<ul style="list-style-type: none"> フォアキャストアプローチが基本 	<ul style="list-style-type: none"> 将来像に応じてテーマを設定するためバックキャストアプローチ(理想の都市を掲げその実現策をします)が基本
評価	メリット	<ul style="list-style-type: none"> ○部門別に整理されているため各部署の役割が分かりやすい ○部門に分けられているため、対外的にも調整しやすく各種の他の計画とも整合を図りやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○市全体で都市計画として取り組むべき横断的なテーマや複合的な都市課題に対応しやすい ○朝霞市が注力するテーマ(メッセージ)が市民に伝わりやすい
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ▲横断的に取り組むべき分野やテーマに対応しにくい ▲都市計画運用指針に基づく標準的な構成であるが、市民へのわかりやすさ、社会要請の変化への対応等の観点から改良の余地あり 	<ul style="list-style-type: none"> ▲分野別にやるべきことがわかりにくい(⇒分野や担当課別の逆引き索引を作成することで改善可能と考えられる) ▲取組内容が複数のテーマに該当するものがあり、書き分け等の調整が発生する

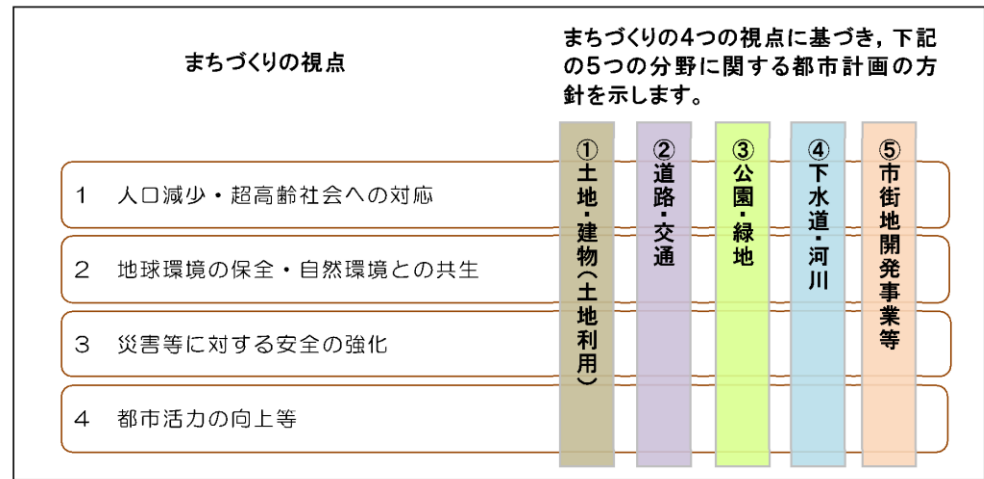
■想定される都市マスの構成パターンの比較検討

(参考)テーマ型都市マスの事例

【事例①】千代田区都市マス



【事例②】水戸市都市マス



■朝霞市の適切な都市マスの構成(事務局案)

- 構成パターンに比較検討を踏まえ、以下の理由から朝霞市の都市マスの構成として『テーマ型』の都市マス構成に転換していくことが望ましいと考える。

【「テーマ型」の都市マスを提案する理由】

<朝霞市都市マスに対する基本的な考え方>

- 総合計画に基づく将来像の実現を目指す都市マスでは、「なぜ、そのようなまちづくりが必要か」を市民や事業者等にわかりやすく説明できることが重要である。
- 従来型の分野別の方針を定める都市マスでは、「なにをやるのか」は明確だが、「なんのためにやるのか」は十分に説明できない。
- この問題に対して、都市マスというツールを柔軟かつ戦略的に活用し、市民意向や市の上位計画、現況調査等から求められるまちづくりの「テーマ」に着目した、「テーマ型の都市マス」づくりが適していると考ええる。

<テーマ型都市マスのメリット>

- 市民や事業者にとって「どのような都市を目指すのか」がわかりやすいため、多様な主体の参加を促しやすいこと
- まちづくり方針のターゲットが明確であること
- 重要な都市インフラや拠点整備の必要性や整備効果を、多面的な側面から説明できること

■テーマの検討

【総合計画における将来像やその実現に向けた基本方向、共通理念(案)】

<将来像【ビジョン】>

未来へつなぐ だれもがいつまでも住み続けたいまち 朝霞

<将来像実現のための基本方向>

- だれもが安全に、安心して暮らせる環境をつくる
- だれもが自分らしく、育ち・活躍できる環境をつくる
- だれもが快適に、便利にまちを楽しめる環境をつくる

<将来像実現のための共通理念>

- 持続可能性への配慮と、行動を心掛ける
- 住みやすさ、暮らしの場としての魅力向上を心掛ける
- 多様性を尊重し、さまざまな主体の参画と協働を心掛ける

令和6年4月19日
第4回総合計画審議会資料より

【テーマを設定に向けた検討の視点】

- 総合計画の将来像の実現に向けて、都市側で受け持つ内容を網羅できているか
- 市民等がテーマを見て、将来の暮らし方・過ごし方をイメージできるか
- 市内に住んでいる方、通勤・通学してくる方、来訪者を網羅できているか、赤ちゃんからお年寄りまで全ての世代を網羅できているか

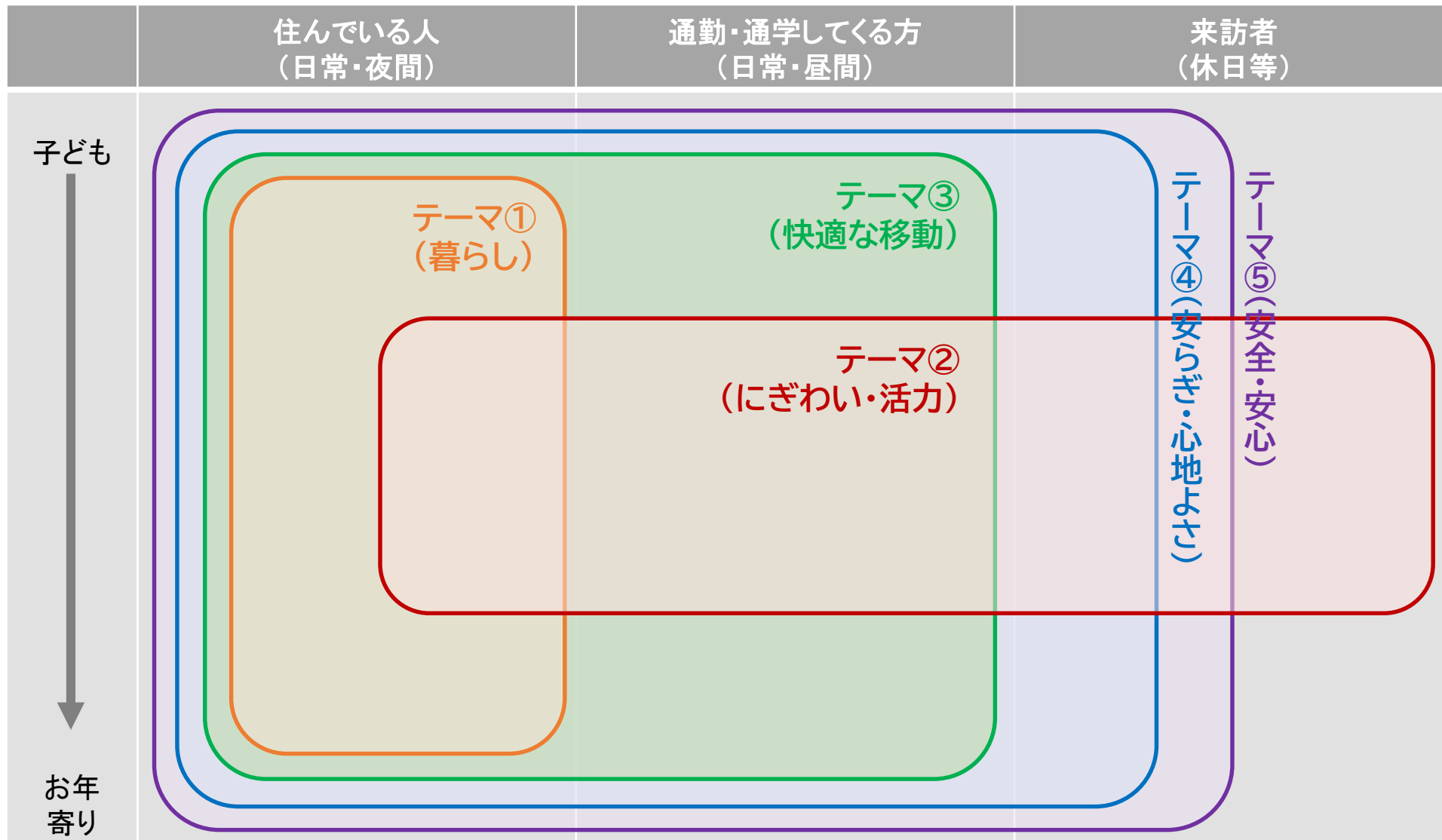
■テーマの検討

【朝霞市都市マスにおけるまちづくりのテーマ(事務局案)】

テーマ	主なターゲット	具体的な取組
【テーマ①:暮らし】 子どもから高齢者まで誰もが いきいきと暮らせるまちづくり	・住んでいる人	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが安全に遊べる公園等の確保 ● 子育てを支援する場(預かり、交流)の確保 ● コワーキングや自宅で働くなど、住みながら市内で働ける環境の確保 など
【テーマ②:にぎわい・活力】 にぎわいと活力のある まちづくり	・通勤・通学して くる方 ・来訪者	<ul style="list-style-type: none"> ● 商業・業務機能の充実(商店街の活性化) ● 新たな産業(工場や物流)の誘致 ● 自分磨きや新たな交流が生まれる場所の確保 など
【テーマ③:快適な移動】 安全で快適な移動環境のある まちづくり	・住んでいる人 ・通勤・通学して くる方	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通やシェアサイクル等のモビリティの確保による移動利便性の向上 ● 通学路の交通安全対策 ● 都市施設のユニバーサルデザイン化 など
【テーマ④:安らぎ・心地よさ】 水と緑を活かした、 持続可能なまちづくり	・全体	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境や都市農地の保全・活用(カーボンニュートラル) ● 歴史・文化資源の保全・活用 ● 良好な景観形成 など
【テーマ⑤:安全・安心】 災害にしなやかに対応し、 回復力の高い強靱なまちづくり	・全体	<ul style="list-style-type: none"> ● 河川氾濫や土砂災害、火災等の非常時に対する対策の強化 ● 復旧等に向けた体制強化(広域幹線道路ネットワークの形成など) など

■テーマの検討

【朝霞市都市マスにおけるまちづくりのテーマ(事務局案)が主にカバーする領域】



■テーマの検討

(参考)テーマ①(暮らし)の取組とターゲットとの関係性

	住んでいる人 (日常・夜間)	通勤・通学してくる方 (日常・昼間)	来訪者 (休日等)
子ども ↓ お年寄り	<p>テーマ①(暮らし)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが安全に遊べる公園等の確保 コワーキングや自宅で働くなど、住みながら市内で働ける環境の確保 ライフスタイルに応じた良好な居住環境の確保 高齢者が気軽に集まれる憩いの場の確保 学校や仕事帰りに滞在できる空間の確保 子育てを支援する場(預かり、交流)の確保 医療・福祉施設等の都市機能の確保 		

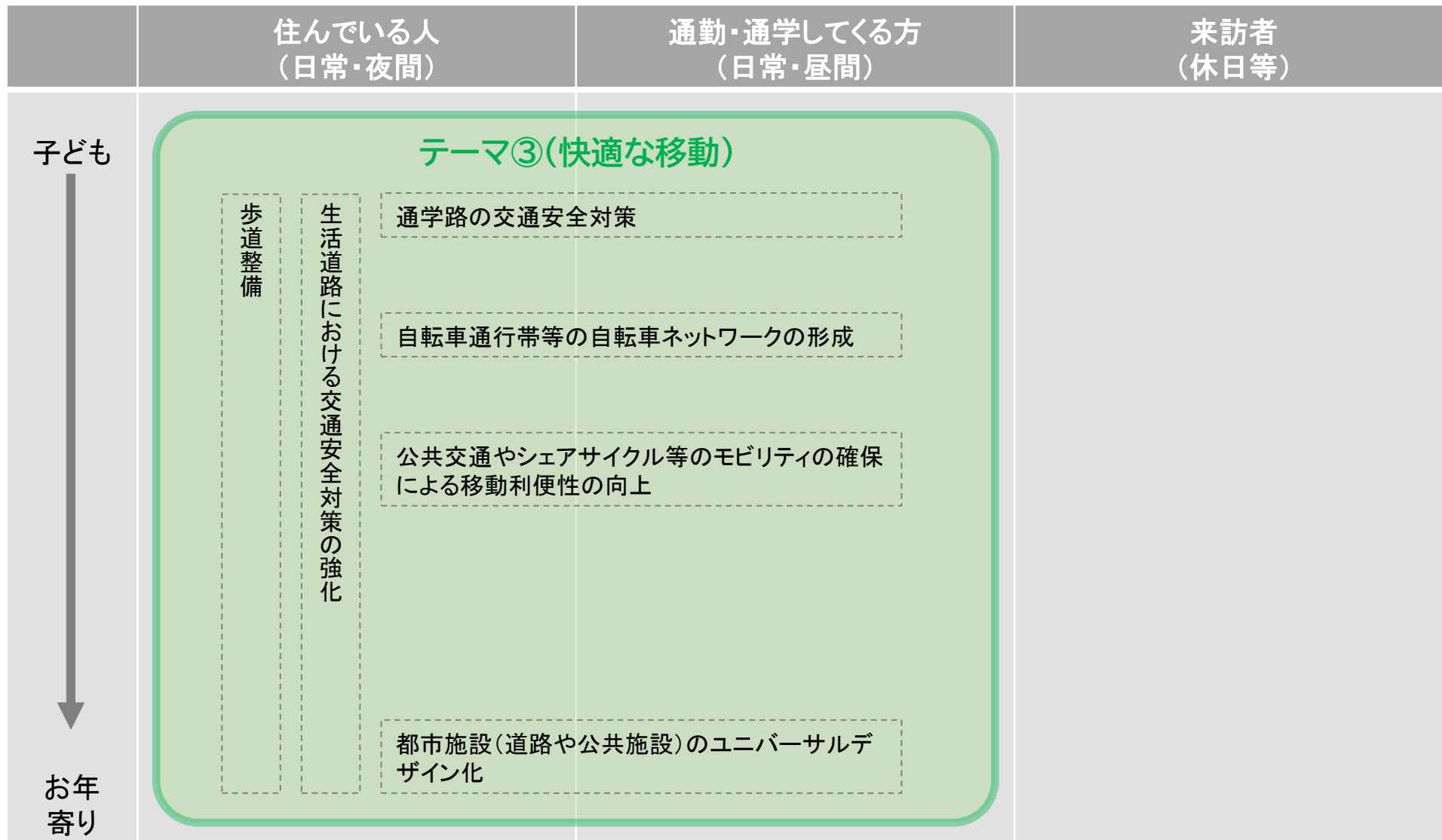
■テーマの検討

(参考)テーマ②(にぎわい・活力)の取組とターゲットとの関係性

	住んでいる人 (日常・夜間)	通勤・通学してくる方 (日常・昼間)	来訪者 (休日等)
子ども ↓ お年寄り	<p>テーマ②(にぎわい・活力)</p> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 20px; padding: 10px;"><div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;">商業・業務機能の充実(商店街の活性化)</div><div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;">新たな産業(工場、物流の誘致)</div><div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;">幹線道路ネットワークの強化</div></div><div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;">公共空間等を活用したイベントの実施</div><div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;">自分磨きや新たな交流が生まれる場所の確保</div></div>		

■テーマの検討

(参考)テーマ③(快適な移動)の取組とターゲットとの関係性



■テーマの検討

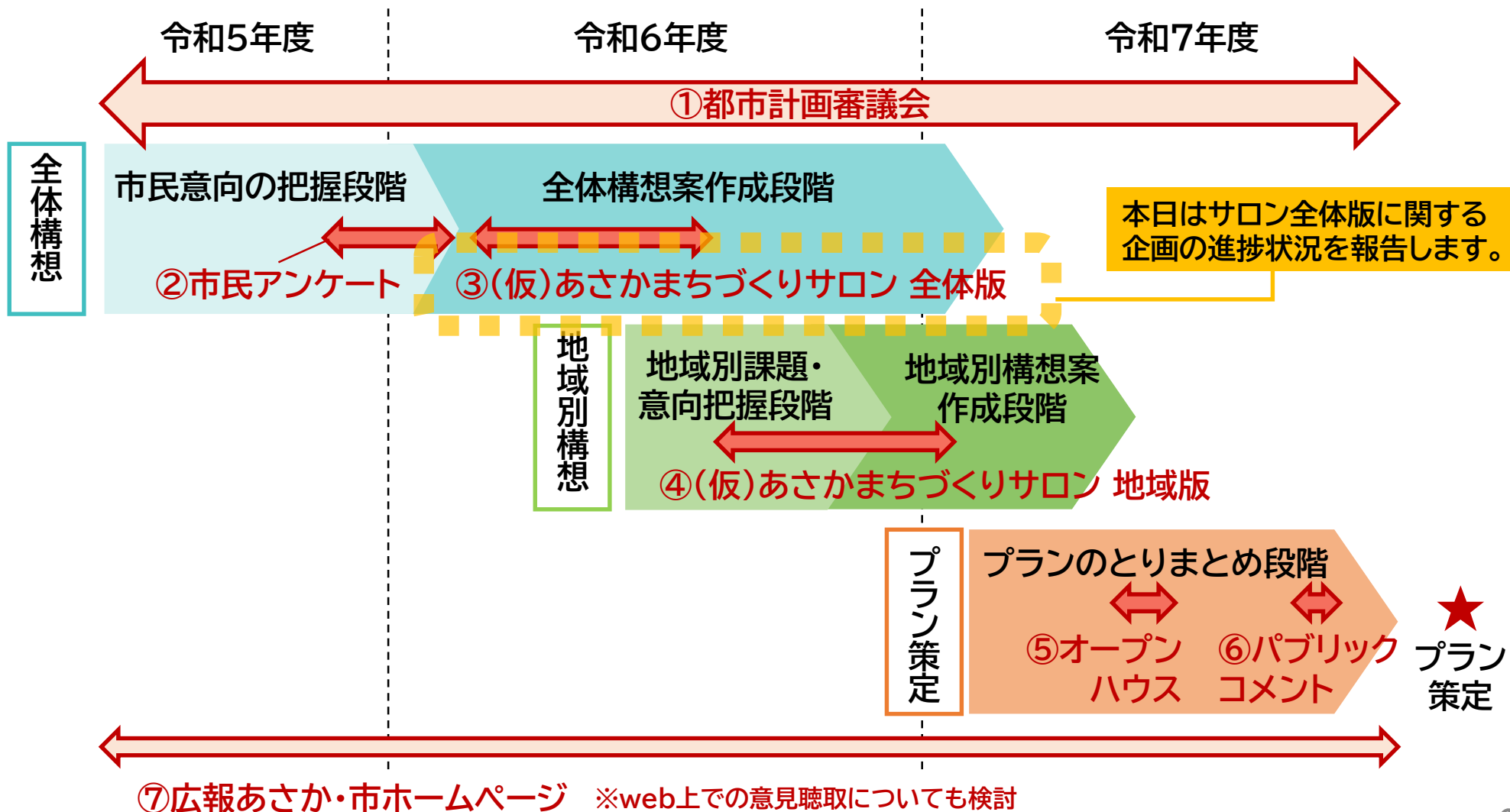
(参考)まちづくりのテーマとこれまでの分野別方針との関係性

テーマ	土地利用	道路交通	緑・景観 ・環境共生	市街地整備	安全・安心
①子どもから高齢者まで誰もがいきいきと暮らせるまちづくり	○	○	○	○	○
②にぎわいと活力のあるまちづくり	○	○		○	
③安全で快適な移動環境のあるまちづくり		○			○
④水と緑を活かした、持続可能なまちづくり	○		○		
⑤災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり	○	○		○	○

全体構想策定に伴う合意形成プロセス
「まちづくりサロン(全体版)」
の実施について

合意形成の全体プロセスと手法の全体像 (前回委員会資料再掲)

朝霞市都市計画マスタープランでは、以下のように策定の段階に応じた手法を組み合わせることで合意形成を図っていきます。



■あさかまちづくりサロン 全体版の概要

※前回委員会資料の時点更新版

項目	説明
目的	・全体構想検討の初期段階において、1回ごとに完結する内容のワークショップを複数回実施し、朝霞市のまちづくりの方向性や将来像の検討に反映するとともに、都市マスへの関心を高めることを目的とする。
実施内容	【実施時期】R6年度前半 【実施回数】4回程度 【内容】回ごとにテーマを設け、テーマに応じて参加者(ターゲット)を設定(テーマとターゲットは後述)
総合計画との連携	・総合計画で実施するワークショップや分野別市民懇談会、青少年意見聴取と連携して企画内容を調整する。

【参考】 総合計画で実施する合意形成との連携・調整

都市マスと同時並行で策定を進めている総合計画側では以下のようなワークショップ等の合意形成を行っており、情報共有しながら都市マス側の合意形成を企画立案しています。

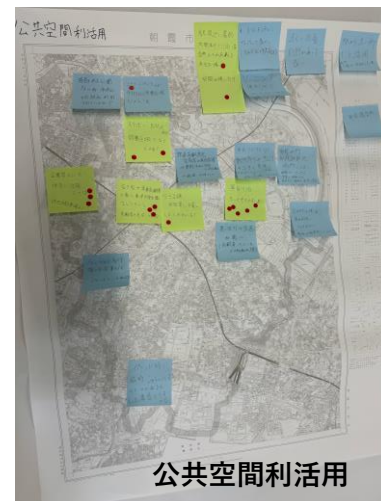
(1) 市民ワークショップ～あさかの未来を話そう～

項目	内容
開催日時	令和6年1月20日(土) 13:30～17:00
参加者	朝霞市在住・在学・在勤等、市に関心のある方28人 朝霞市職員16人(テーブルの進行役として参加)
議論内容	グループワーク①: 今の朝霞市のよいと思うところ・改善が必要と思うところ グループワーク②: 未来の朝霞市はどんなまち?



(2) 分野別市民懇談会(都市建設部会)

項目	内容
開催日時	令和6年2月17日(土) 12:30～14:00
参加者	朝霞市在住・在学・在勤等、市に関心のある方14人
議論内容	「未来を拓くまちづくり ～次世代につなぐインフラ整備～」をテーマとして、テーブルを「道路・交通」「緑・公園・景観」「開発・住宅」「公共空間利活用」「上下水道」に分けて以下のワークを行った。 グループワーク①: 良いところ・課題になっていること グループワーク②: 20年後のあるべき姿・今後20年間でやりたいこと



■あさかまちづくりサロン(全体版)の企画内容

あさかまちづくりサロン(全体版)は、幅広い話題とターゲットを設定する観点から、以下のように「暮らし」「駅周辺」「若者(高校生)」をテーマとします。

テーマ	暮らし	駅周辺		若者(高校生)
実施時期と会場	令和6年6月22日 (土) 10:00~12:00 市役所会議室	北朝霞・朝霞台周辺 令和6年7月11日 (木) 18:00~20:00 産業文化センター	朝霞駅周辺 令和6年7月18日 (木) 18:00~20:00 市役所会議室	朝霞高校 令和6年7月4日(木) 朝霞西高校 令和6年7月17日(水)
参加者(ターゲット)と募集方法	広報、募集チラシの掲示配布、都計審臨時委員を通じた案内等	募集チラシの掲示配布、都計審臨時委員を通じた案内、両駅のエリアプラットフォーム参加者への案内(SNSを通じて実施)		市内高校へ直接案内(一般公募は行わない)
企画概要	自分とは違う立場(ロールプレイング)で朝霞のまちを考え、将来も朝霞に住み、働き、通うためにどんなまちを目指すべきかを議論	市内の両駅に対して、将来の駅周辺に望むことや、望ましい駅周辺にしていくために市民がどう関われるか等を議論		自分達が大人になった10年後、どんなまちになっていてほしいか、自分になにができるか等を議論(都市マスの目標年次は20年後だが、リアリティある議論をしていただくため想定年次は10年後とする)
都市マスへの反映見直し	サロンでいただいた意見は、まちづくりの目標(将来像、基本方針)やテーマ別の方針のうち関連する部分に反映していく			

【参考】あさかまちづくりサロン 「暮らし」サロンの募集チラシ

表面

朝霞市都市計画マスタープランの策定に向けた

あさかまちづくりサロン

朝霞市では、令和8年度から始まる新たな都市計画マスタープランの策定を進めています。市民の皆さんの多様なご意見を踏まえた計画とするため、あさかの将来のまちづくりについて和やかな雰囲気の中でみんなで話し合うワークショップ「あさかまちづくりサロン」を開催しますので、ぜひご参加ください。

あさかの将来と一緒に考えてみませんか？



今回のテーマは

“暮らし”

場所 市役所 5階 大会議室

【暮らしサロンのテーマ】

将来も朝霞に住み、働き続けるために

【概要】

朝霞をもっと好きになる、住み続ける、働き続けるためにどんなまちになってほしいかを話し合います。

【対象者】

朝霞に住んでいる人、朝霞で働いている人・朝霞の学校等に通っている人ならどなたでも。

学生さんや
お子様連れも大歓迎

日時 2024年6月22日(土)
10:00~12:00

【お申込・お問い合わせ】

下記の内容を電話、FAXまたはメールにてお伝えください。

お名前・年齢・住所・電話番号

主催：朝霞市
TEL：048-463-2518
FAX：048-463-9490
mail：mati_zukuri@city.asaka.lg.jp

締め切り
6月17日(月)

現行の都市計画マスタープラン、現在作業中の都市マスタープランの検討過程はホームページをご覧ください。

現行の都市計画マスタープラン
(平成30年6月修正)



朝霞市都市計画マスタープラン
の検討過程



開催予定のサロン

- 駅周辺サロン（北朝霞・朝霞駅周辺）7月11日(木) 夜の時間帯を予定
- 駅周辺サロン（朝霞駅周辺）7月18日(木) 夜の時間帯を予定

※ほかに、5つの地域ごとに行う“地域サロン”、朝霞の高校生を対象にした“高校サロン”を予定しています。

※詳細は後日市のHPやチラシにてお伝えします。



裏面

都市計画マスタープランとは

市民の皆さんの暮らしや事業者の方々の活動を支える良好な都市環境を実現するためには、まちづくりのビジョンを定め、そのビジョンに沿って道路・公園・下水道といった身近な公共施設の整備・改修や、工業・商業・住宅等の土地の使い方や建物の建て方を定めることが必要です。

このようなルールや計画を定めたものが「都市計画」であり、市民の意見を踏まえたまちづくりの基本的なビジョンを定めたものが「都市計画マスタープラン」です。

都市計画マスタープランでは、概ね20年後の望ましい都市を考え、市域全体の目指す将来像と都市整備の方針を示した「全体構想」と、地域別の整備方針を示した「地域別構想」で構成されています。

朝霞市の都市計画マスタープランは、平成17年3月に当初計画を策定し、その後社会・経済状況や市民ニーズの変化などをふまえ平成28年11月に見直しを行ってまいりましたが、令和7年に目標年次を迎えるため、令和8年度からの次期計画の策定に向けた作業を現在進めています。

駅前空間が賑わいの拠点になったら良さそう！

■マスタープラン



緑を狭したいな！

まち中にどんな空間があったらいいのかな

■将来のまちの風景



(2040年、道路の景色が変わる)

